



「図書館展示」

CROSS OVER

前号のみささぎ31号では、新型コロナウイルス感染対策のため入構制限や、図書館の利用制限を余儀なくされてしまったみなさんに向けて、少しでも奈良大学図書館のことを知っていただけたらと、図書館紹介を中心にお届けしました。

みなさん図書館へは来てみましたか？利用していただいていますか？



今号32号では、来館しての利用が難しかった時期が継続していたこともあり、今年度の図書館展示室での展示内容をご紹介します。

図書館展示室では、利用制限のある期間も企画展示をしています。図書館所蔵の貴重な資料や学科所蔵の史料等、展示の期間にしかご覧いただけないものもあります。ほかに先生方独自の企画内容での展示など、約3か月ごとに内容を更新しており、年度を約3~4会期に区切って展示しています。

展示室の中には書架もあり、前号でご紹介した、世界で最初の印刷物が納められていたともいわれている『百万塔陀羅尼』(写真)を常設展示しています。

また、館内にミニ展示のコーナーを設けており、現在は継続企画「STAFF 選書」を実施しています。図書館スタッフが独自のテーマで選書し、POPもスタッフが作成しています。

展示を閲覧することからも、レポートや研究のテーマ、または単なる興味でも、何かのきっかけとなれば・・・と図書館はみなさんをお待ちしております。

図から見る奈良

～奈良大学図書館閉架資料を中心に～

令和3年
展示期間：5～6月

奈良関係の図版資料のなかでも1枚ものを中心に展示。

奈良大学図書館には保存庫資料以外にも、様々な閉架資料を所蔵しており、その一部をお披露目できる良い機会となりました。



書物の歴史と奈良大学の善本

令和4年
展示期間：1～3月

昨年度に引き続き本学名誉教授の森田憲司先生による企画展示。

WEB授業では体感できない部分に実際に触れ、受講生以外にも奈良大学の貴重な資料を知る機会を、との先生のご意向もあり大勢の学生が閲覧に訪れています。



CROSS OVER

～未知の分野と触れ合う～

令和3年
展示期間：7～9月

2学部6学科の先生方にご推薦いただいた図書館所蔵資料および研究室所蔵史料、先生の個人所蔵資料を展示。

資料から垣間見える学科の特色に興味をひかれ、学科案内パンフレットをまとめて持ち帰られる方も見受けられました。



2021年度 展示紹介

STAFF選書

令和2年度にスタッフの選書で購入した資料の一部をミニ展示として展開しています。

これまで、製本・印刷、日中近現代史、大峯奥駈道、生活情報など多岐にわたるジャンルで、スタッフ個々が独自のテーマで選書した資料を展示しています。来年度も継続企画としてミニ展示を実施予定ですので、お楽しみに！

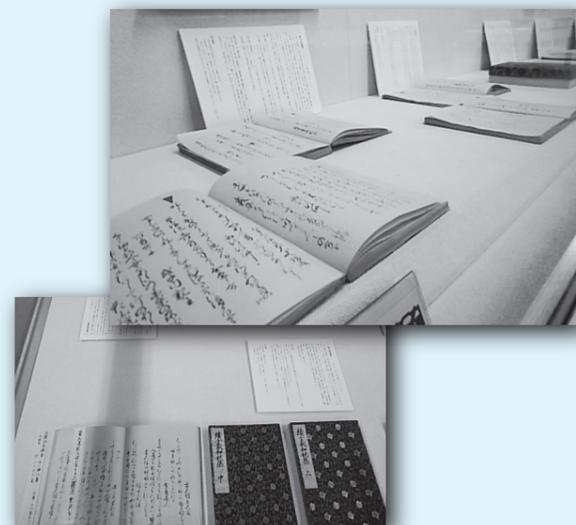


特別集書 (令和2年度) 購入図書展示 勅撰集 和歌十九代集

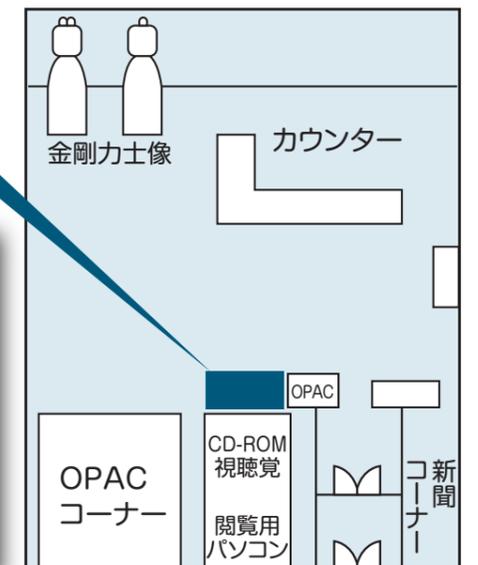
令和3年
展示期間：10～12月

国文学科の推薦により令和2年度に購入された「勅撰集 和歌十九代集」を、同学科の三宅晶子教授の企画・監修のもとに展示。

橘樹文庫所蔵の「八代集古筆切」も併せて展示され、大変貴重な展示期間となりました。



2階OPAC
コーナーの
手前にて
(入替不定期)



図書館統計（2021年3月末）

2021年度	令和元年度 (平成31、2019)	令和2年度 (2020)	増減
開館日数	274	237	▲1
入館者数	90,758	34,795	▲55,963
図書所蔵数	559,686	562,219	2,533
雑誌タイトル数	6,419	6,402	▲17
貸出総数	51,056	25,670	▲25,386
内 学生※	46,657	22,385	▲24,272
相互協力利用(依頼)	325	253	▲72
相互協力利用(受付)	677	673	▲4

※ 通信教育部生を含む

令和元年（平成31）年度まで各項目増加傾向にあったなかでのコロナ禍となり、図書館活用の機会が減ってしまったことが原因で各項目が減少しています。入館者数の減少に比例して、貸出数も前年度の約半数にまで減少しています。

コロナ禍にあっても相互協力の受付数の減少が極めて少ないのは、前年とほぼ変わらない数の当館への依頼があったためです。今まで来館されてご利用されていた方が、他館・他機関を通じて依頼されたケースも多数見受けられました。

今後は、コロナ禍での図書館の在り方等を再考し、非来館におけるサービスも検討していきたいと考えています。

編集後記

今号もみなさんと図書館をつなぐひとつの“きっかけ”をテーマに、図書館展示についての特集をお届けしました。

コロナ禍ではありますが、入館制限も少しずつですが緩和されています。新しい資料も、止まることなく継続して受入れています。当面の間は、以前のように来館を主体として利用いただくことは難しいかもしれませんが、これからは来館／非来館で使い分けいただけるようなサービスを検討していきたいと考えています。（編集担当）

発行：令和4年3月4日

編集：奈良大学図書館 奈良市山陵町1500